

## 八丈方言のミンナのミの母音と音韻生存

高山 林太郎 (東京福祉大学)  
takayama\_rintaro@nifty.com

### 1. はじめに

筆者は高山 (2010) で上代特殊仮名遣甲類乙類の区別をニアマージャーとして報告したが、理屈が説明できなかった。その後、博士論文「高知市方言の一拍挿入低起式化形」(高山 (2018) として刊行) で、形容詞・形容動詞・オノマトペなどの強調されやすい品詞・語種において、古い世代の音韻を、若い世代が強調形として伝承することがある現象、「音韻生存」を提唱し、形容詞の強調形に見られる挿入拍と遅上がりイントネーションの組合せ (アッ[カ]イ, アカ[ー]イ) は院政期の遅上がり低起式の音韻生存なのではないかと論じた。「ミンナ」の「ン」や数詞の挿入拍の一部もその際に生じたと説明している。音韻生存の代表例として、千年以上生存している「ピカピカひかる」の「ピ」を挙げたが、八丈島中之郷・檜立ではオノマトペだけでなく動詞でも「かみなりがピカッてピカッて！」のように強調形なら「ピ」が生存しており、接頭辞の脱落を説く通説には疑問が残る。

### 2. 母音多角形の描画

2018年4月29日から5月6日まで八丈島を訪れ20名調査した(表1)。主たる調査内容は音響・統計分析による母音多角形の描画で、例文は「ちーとはきと一か?みんなきたら!」(反論する強調の文脈; /I+/), 「これいあに一てよもか?ミンナだら。」(漢字「皆」を読むだけの文脈; /I-/), 「ミンだら」(中国の古代王朝の明; /i/), 「メンだら」(麵; /e/), 「マンだら」(万; /a/), 「モンだら」(門; /o/), 「ムンだら」(現韓国大統領の文; /u/) を用いた。例文の実際の言い回しは各話者に適切なものを教えていただき用いている。簡単に述べると、「か」は省略可能である。「きと一か」は地区により「きた一か, きとあか」などとなる。「きたら」は「きたらよ一, きと一じゃん, おじゃらら」などとなる。「あに一て」は地区により「あんて」となる。「だら」は「だらよ一」などとなる。なお、音響分析に支障が出るような言い回しの変更は、たとえ方言としては正しくても採用しなかった。

「ミンナ」の「ミ」は、坂上末吉1名、坂下三根(家系は小島)1名では/I+, I-/共に中舌母音[i]で、/I-/より/I+/の方が更に中舌に寄っていた(これは音韻生存した強調形としての性質と考えている)。小島鳥打1名では/I+/が中舌母音で/I-, i/は前舌母音[i]だった。坂上檜立3名、坂上中之郷1名、坂下大賀郷1名では/I+/がゆるみ母音[i]で/i/は前舌母音[i]だった。坂下三根3名、青ヶ島1名では/I+, e/は半狭母音[e]で/I-, i/は狭母音[i]だった(以上, 図1)。残りの8名では同様の現象は見られなかった。聴覚印象で区別を感じたが母音に差が出ないケースもあり、子音の違いと見られるが、母音に重点のある本研究では扱わない。従って筆者はミ乙類母音が坂下三根・青ヶ島を除く八丈方言において音韻生存していると主張する。ただし小島宇津木は未調査で、もし今後機会があれば調査したい。

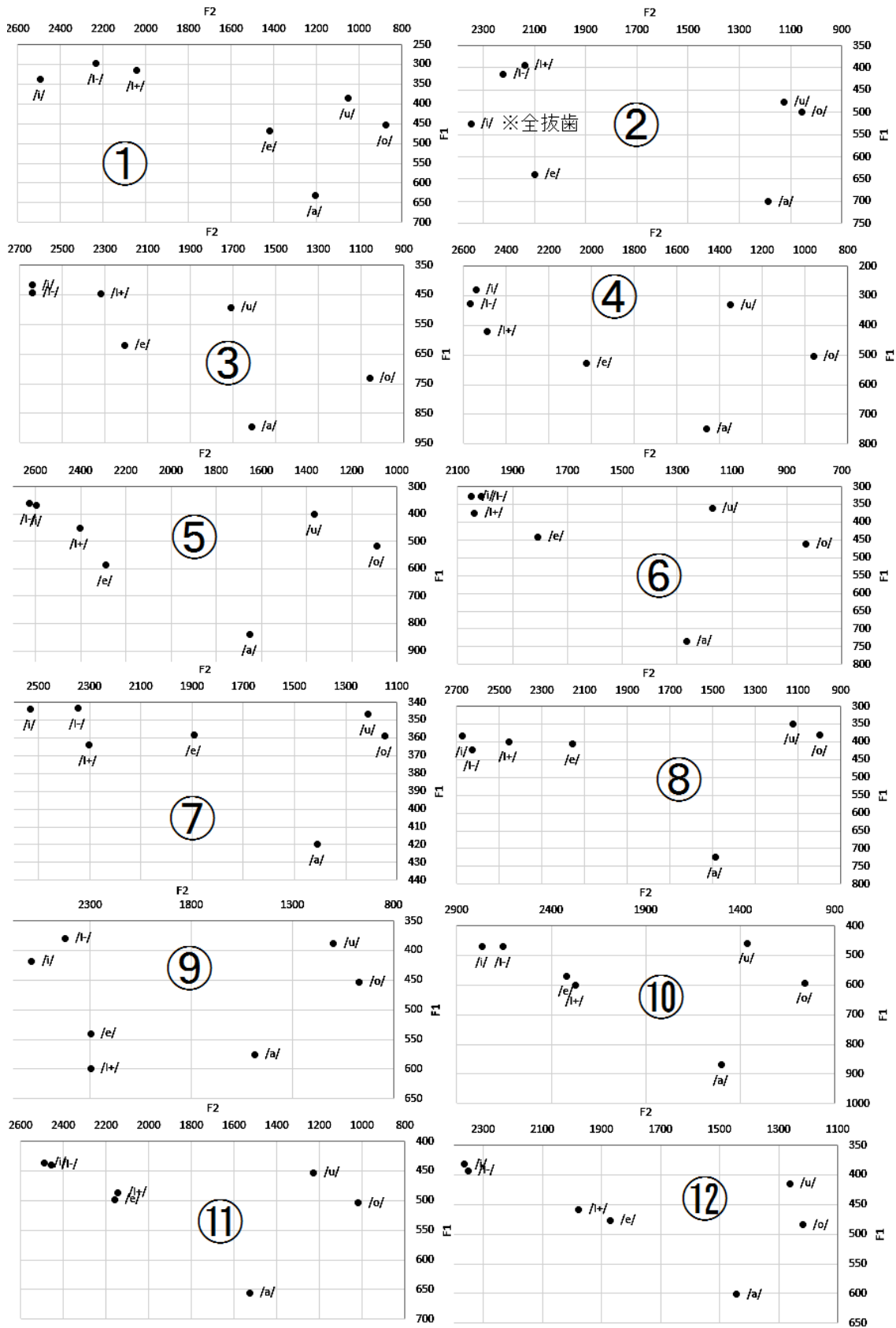


図 1. 各話者のミ乙類母音の音価 (⑨のみ全計測点を単純に平均した場合の表示)

音響分析には praat とエクセル統計（表 2）を用いた。なお耳で聞いて差を感じない話者は分析自体実施していない。差を感じた場合に分析し、母音に差が出た場合を上に掲げる。

表 1. 2018 年ゴールデンウィーク八丈島調査話者一覧

番	調査	姓名	y/m/d 生れ	齢	地域	地区	外住等	/I/	図 1	形
01	4/29	匿名女性	1960/7/16	57	坂下	三根	東京	=/i/		NR
02	4/29	匿名女性	1932/12/14	85	坂下	三根	東京	/I+, e/	⑨	NR
03	4/29	浅沼省史	1941/5/26	76	坂下	三根		=/i/		NR
04	4/30	匿名男性	1955/2/15	63	坂下	三根		=/i/		有
05	4/30	匿名女性	1953/3/6	65	坂下	三根		/I+, e/	⑩	有
06	4/30	奥山みや	1929/12/30	88	青ヶ島		東京	/I+, e/	⑫	有
07	5/01	匿名男性	1938/4/17	80	坂上	檜立	東京	/I+/[I]	⑥	有
08	5/01	米良真幸	1950/7/10	67	坂上	中之郷		=/i/		有
09	5/01	米良明子	1950/8/31	67	坂上	檜立		=/i/		有
10	5/02	匿名女性	1936/5/4	81	坂下	大賀郷	末吉	=/i/		有
11	5/02	浅沼道一	1942/7/31	75	坂上	末吉		/I/[i]	①	有
12	5/02	福田栄子	1939/4/19	79	坂上	中之郷		=/i/		有
13	5/02	匿名女性	1936/7/7	81	坂上	檜立	東京	/I+/[I]	⑤	有
14	5/04	持丸のり子	1947/8/1	70	坂下	三根		=/i/		NR
15	5/04	田代清	1938/3/11	80	坂下	三根		/I+, e/	⑪	有
16	5/04	篠崎美子	1945/3/28	73	坂上	檜立		/I+/[I]	④	NR
17	5/04	浅沼康子	1961/8/7	56	小島	鳥打	三根	/I+/[i]	③	有
18	5/05	菊池政代	1934/3/15	84	坂上	中之郷		/I/[I]	⑦	有
19	5/05	匿名女性	1948/-/-	69	坂下	大賀郷	東京	/I+/[I]	⑧	有
20	5/06	持丸ミチエ	1927/10/27	90	坂下	三根	小島	/I/[i]	②	有

表 2. 図 1 の①②③の統計（母音区間の各計測点の平均値をトークンとした t 検定）

①	変数	n	平均	不偏分散	標準偏差	標準誤差			
	o F1	20	450.735	2172.019	46.605	10.421			
u F1	20	383.711	1178.706	34.332	7.677				
a F1	20	629.272	257.483	16.046	3.588				
e F1	20	466.133	927.351	30.452	6.809				
i F1	20	336.457	166.804	12.915	2.888	t 検定	統計量:t	自由度	P 値
I- F1	22	295.229	81.322	9.018	1.923	Welch の方法	11.8834	33.6022	P < 0.001
I- F1	22	295.229	81.322	9.018	1.923	t 検定	3.2317	65	P=0.0019
I+ F1	45	312.949	617.478	24.849	3.704	Welch の方法	4.2459	61.5417	P < 0.001
変数	n	平均	不偏分散	標準偏差	標準誤差				
o F2	20	880.840	6028.883	77.646	17.362				
u F2	20	1056.745	16705.169	129.248	28.901				
a F2	20	1210.271	1481.486	38.490	8.607				
e F2	20	1422.775	8556.639	92.502	20.684				
i F2	20	2500.915	9860.759	99.301	22.204	t 検定	統計量:t	自由度	P 値
I- F2	22	2236.636	14280.689	119.502	25.478	Welch の方法	7.8199	39.7011	P < 0.001
I- F2	22	2236.636	14280.689	119.502	25.478	t 検定	6.9613	65	P < 0.001
I+ F2	45	2049.081	9029.460	95.023	14.165	Welch の方法	6.4339	34.4198	P < 0.001
②	変数	n	平均	不偏分散	標準偏差	標準誤差			
o F1	21	496.715	6892.077	83.019	18.116				
u F1	22	474.371	3042.801	55.162	11.760				
a F1	22	698.812	12526.335	111.921	23.862				
e F1	40	636.831	2985.492	54.640	8.639				
i F1	37	523.853	4054.552	63.675	10.468	t 検定	統計量:t	自由度	P 値
I- F1	29	411.812	1669.740	40.862	7.588	Welch の方法	8.6659	61.8246	P < 0.001
I- F1	29	411.812	1669.740	40.862	7.588	t 検定	2.3086	67	P=0.0241
I+ F1	40	392.408	841.436	29.008	4.586	Welch の方法	2.1884	47.6324	P=0.0336
変数	n	平均	不偏分散	標準偏差	標準誤差				
o F2	21	1061.541	5022.844	70.872	15.466				
u F2	22	1129.954	2447.173	49.469	10.547				

a F2	22	1191.376	20695.154	143.858	30.671					
e F2	40	2103.244	1548.285	39.348	6.222					
i F2	37	2352.546	7241.718	85.098	13.990	t検定	4.5532	64	P<0.001	統計量:t 自由度 P値
l-F2	29	2225.816	19476.491	139.558	25.915	Welchの方法	4.3032	43.8043	P<0.001	
l-F2	29	2225.816	19476.491	139.558	25.915	t検定	2.8945	67	P=0.0051	
l+F2	40	2143.233	9526.697	97.605	15.433	Welchの方法	2.7379	47.1254	P=0.0087	
③ 変数	n	平均	不偏分散	標準偏差	標準誤差					
o F1	20	728.636	4937.401	70.267	15.712					
u F1	20	491.215	518.250	22.765	5.090					
a F1	22	892.548	1351.507	36.763	7.838					
e F1	20	618.170	959.162	30.970	6.925					
i F1	20	415.202	370.019	19.236	4.301	t検定	3.1135	40	P=0.0034	統計量:t 自由度 P値
l-F1	22	440.753	1009.080	31.766	6.773	Welchの方法	3.1847	35.0541	P=0.0030	
l-F1	22	440.753	1009.080	31.766	6.773	t検定	0.3557	82	P=0.7230	
l+F1	62	443.120	618.861	24.877	3.159	Welchの方法	0.3167	30.6351	P=0.7537	
変数	n	平均	不偏分散	標準偏差	標準誤差					
o F2	20	1065.609	2679.846	51.767	11.576					
u F2	20	1715.228	5778.046	76.013	16.997					
a F2	22	1619.604	5658.934	75.226	16.038					
e F2	20	2213.276	859.099	29.310	6.554					
i F2	20	2647.680	3430.003	58.566	13.096	t検定	0.1993	40	P=0.8431	統計量:t 自由度 P値
l-F2	22	2644.062	3478.148	58.976	12.574	Welchの方法	0.1993	39.6731	P=0.8430	
l-F2	22	2644.062	3478.148	58.976	12.574	t検定	9.6646	82	P<0.001	
l+F2	62	2326.356	22391.382	149.638	19.004	Welchの方法	13.9424	81.0049	P<0.001	

### 3. 3 拍形容詞の一拍挿入形

主たる調査の他に、3拍形容詞の一拍挿入形と間投音の調査を実施した。3拍形容詞の一拍挿入形について、しっかりと調査できたと考えられる話者（表1の「形」が「NR」でなく「有」の話者）に限り、調査結果を表3に記す。形容詞の通常形は例えば「あつきゃのー」、強調形は「あつーきゃのー」（話者により「あつつきゃのー」も）の形で調査した。「きゃ」で言い切るより「のー」を付けた方が単独で言いやすかったからである。「きゃ」は地区により「きゃー」と伸びる発音も可能である。「暑い」は「ほとうろわ」、「熱い」は「しゃしゃきゃ」、「痛い」は「やめろわ」、「旨い」は「んんまきゃ」、「えぐい」は「いごきゃ」、「痒い」は「けーがろわ」、「臭い」は「かまろわ」、「怖い」は「おっかなきゃ」、「寒い」は「こげいろわ」、「ぬくい」は「ぬくときゃ」、「眠い」は「ねぶろわ」、「低い」は「みじゃきゃ」、「ぼろい」は「ぼろだら」、「不味い」は「わるきゃ」が方言形であるが（いずれも三根の形で記述）、強調形の調査に本来の方言かどうかはさほど重要ではない。

表3. 話者15名の3拍形容詞の通常形と挿入形の許容度数

	意味	通常形	n	促音(っ)	n	撥音(ん)	n	長音(ー)	n	長音(ー)	n
A01	青い	あおきゃ	15	あっおきゃ	0	あんおきゃ	0	あーおきゃ	1	あおーきゃ	12
A02	赤い	あかきゃ	15	あっかきゃ	2	あんかきゃ	0	あーかきゃ	0	あかーきゃ	14
A03	厚い	あつきゃ	14	あっつきゃ	3	あんつきゃ	0	あーつきゃ	0	あつーきゃ	13
A04	暑・熱い	あつきゃ	14	あっつきゃ	2	あんつきゃ	0	あーつきゃ	0	あつーきゃ	11
A05	甘い	あまきゃ	15	あつまきゃ	0	あんまきゃ	1	あーまきゃ	1	あまーきゃ	14
A06	痛い	いたきゃ	11	いったきゃ	2	いんたきゃ	0	いーたきゃ	0	いたーきゃ	9
A07	薄い	うすきゃ	15	うっすきゃ	3	うんすきゃ	0	うーすきゃ	0	うすーきゃ	13
A08	旨い	んまきゃ	7	んつまきゃ	0	んんまきゃ	15	んーまきゃ	0	んまーきゃ	10
A09	酷い	えぐきゃ	9	えっぐきゃ	1	えんぐきゃ	0	えーぐきゃ	0	えぐーきゃ	6
A10	惜しい	おしきゃ	15	おっしきゃ	0	おんしきゃ	0	おーしきゃ	0	おしーきゃ	3
A11	遅い	おそきゃ	15	おっそきゃ	3	おんそきゃ	0	おーそきゃ	0	おそーきゃ	13
A12	重い	おもきゃ	15	おっもきゃ	0	おんもきゃ	1	おーもきゃ	1	おもーきゃ	14

A13	堅・硬い	かたきや	15	かったきや	3	かんたきや	0	かーたきや	0	かたーきや	12
A14	痒い	かゆきや	12	かっゆきや	1	かんゆきや	0	かーゆきや	1	かゆーきや	10
A15	辛・鹹い	からきや	15	かっらきや	2	かんらきや	0	かーらきや	2	からーきや	12
A16	軽い	かるきや	15	かっるきや	1	かんるきや	0	かーるきや	2	かるーきや	13
A17	過酷い	きつきや	15	きっつきや	3	きんつきや	0	きーつきや	0	きつーきや	14
A18	臭い	くさきや	14	くっさきや	3	くんさきや	0	くーさきや	0	くさーきや	12
A19	黒い	くろきや	15	くっろきや	1	くんろきや	0	くーろきや	2	くろーきや	14
A20	怖・強い	こわきや	12	こっわきや	1	こんわきや	0	こーわきや	1	こわーきや	12
A21	寒い	さむきや	13	さっむきや	0	さんむきや	1	さーむきや	1	さむーきや	11
A22	渋い	しぶきや	15	しっぶきや	2	しんぶきや	0	しーぶきや	0	しぶーきや	12
A23	白い	しろきや	15	しっろきや	0	しんろきや	0	しーろきや	2	しろーきや	14
A24	凄い	すごきや	15	すっごきや	3	すんごきや	1	すーごきや	0	すごーきや	12
A25	狭い	せまきや	15	せっまきや	0	せんまきや	1	せーまきや	1	せまーきや	14
A26	高い	たかきや	15	たっかきや	2	たんかきや	0	たーかきや	0	たかーきや	15
A27	怠い	だるきや	14	だっるきや	2	だんるきや	0	だーるきや	2	だるーきや	13
A28	近い	ちかきや	15	ちっかきや	2	ちんかきや	0	ちーかきや	0	ちかーきや	14
A29	強い	つよきや	15	つっよきや	1	つんよきや	0	つーよきや	1	つよーきや	12
A30	辛い	つらきや	13	つっらきや	2	つんらきや	0	つーらきや	2	つらーきや	10
A31	長い	ながきや	15	なっがきや	3	なんがきや	0	なーがきや	0	ながーきや	13
A32	苦い	にがきや	15	にっがきや	3	にんがきや	0	にーがきや	0	にがーきや	13
A33	憎い	にくきや	13	にっくきや	4	にんくきや	0	にーくきや	0	にくーきや	13
A34	温い	ぬくきや	0	ぬっくきや	0	ぬんくきや	0	ぬーくきや	0	ぬくーきや	0
A35	温い	ぬるきや	15	ぬっるきや	1	ぬんるきや	0	ぬーるきや	1	ぬるーきや	13
A36	眠い	ねむきや	13	ねっむきや	0	ねんむきや	1	ねーむきや	1	ねむーきや	12
A37	早・速い	はやきや	15	はっやきや	2	はんやきや	0	はーやきや	1	はやーきや	15
A38	低い	ひくきや	14	ひっくきや	3	ひんくきや	0	ひーくきや	0	ひくーきや	13
A39	酷い	ひどきや	14	ひっどきや	2	ひんどきや	1	ひーどきや	0	ひどーきや	11
A40	広い	ひろきや	15	ひっろきや	3	ひんろきや	0	ひーろきや	2	ひろーきや	14
A41	太い	ふときや	15	ふっときや	2	ふんときや	0	ふーときや	0	ふとーきや	13
A42	古い	ふるきや	15	ふっるきや	1	ふんるきや	0	ふーるきや	2	ふるーきや	14
A43	欲しい	ほしきや	15	ほっしきや	2	ほんしきや	0	ほーしきや	0	ほしーきや	3
A44	細い	ほそきや	15	ほっそきや	2	ほんそきや	0	ほーそきや	0	ほそーきや	13
A45	古・儲い	ぼろきや	5	ぼっろきや	2	ぼんろきや	0	ぼーろきや	1	ぼろーきや	4
A46	不味い	まずきや	12	まっずきや	2	まんずきや	0	まーずきや	0	まずーきや	12
A47	丸い	まるきや	14	まっるきや	2	まんるきや	0	まーるきや	5	まるーきや	14
A48	安い	やすきや	15	やっすきや	2	やんすきや	0	やーすきや	0	やすーきや	14
A49	緩い	ゆるきや	15	ゆっるきや	2	ゆんるきや	0	ゆーるきや	2	ゆるーきや	12
A50	弱い	よわきや	15	よっわきや	2	よんわきや	1	よーわきや	1	よわーきや	14
A51	若い	わかきや	15	わっかきや	2	わんかきや	0	わーかきや	0	わかーきや	15
A52	悪い	わるきや	15	わっるきや	2	わんるきや	0	わーるきや	2	わるーきや	12

高山（2018）では次のように論じた。京都において南北朝期に語頭隆起が起り、遅上がり低起式が高起式に合流した際に、強調形として、遅上がりイントネーションが音韻生存する。3拍形容詞では語幹の長さが足りないので挿入拍が補われる。挿入拍の挿入位置は任意で、いずれの位置でも機能する。八丈方言では語幹末の挿入が一般的と見られ、東京方言と同様である。高知市方言では拍数にかかわらずシク活用に挿入形が認められなかったが、八丈方言の3拍語にも同様の傾向が見られる。これは連体形「惜しき、欲しき」は3拍だが終止形「惜し、欲し」は2拍だったことと関係があるかもしれないと議論している。

というのは、高知市方言では2拍形容詞に挿入形は認められず、「よー[一]ー(良く)」は例外だが、院政期は「[[良]く」だったので3拍相当と見てよいからである。

以上のことから、八丈方言はかつて南北朝期音変化を経験した、つまり院政期相当のアクセント体系を古くは有していたということが初めて間接的に示唆されたと考える。

#### 4. 間投音

間投音は A「舌打ち」(吸着音 1 回により怒り・不平不満を表す)、B「ねず鳴き」(吸着音複数回により鳥獣を餌やりなどの為に呼ぶ)、C「膨れっ面」(頬を膨らませる無音間投音で怒り・不平不満を表す)、D「唇ブルブル」(長い両唇ふるえ音で2歳前後までの言葉が分からない幼児をあやしコミュニケーションをとる)の存在を確認した(表 4)。筆者がこれまで調査した日本列島の他の地域では D はブーだったので、現時点で八丈島だけプーであるというのは興味深い。鶏への呼びかけは東京都東村山市で「トットトット…」、高知県土佐市と鹿児島県甕島で「トトトトイ…」、鹿児島県沖永良部島で「トウトウトウトイ…」であり、八丈島が「トトトト…」であるというのは興味深い。これらのような違いはあるが、八丈方言の間投音は基本的には他の日本語諸方言の間投音と類似していると言える。

表 4. 話者 20 名の間投音の許容度数

番	A	B	C	D	備考
01	1	1	1	0	Bは猫, Cは子供の時
02	0	0	0	0	
03	1	1	0	1	Bは猫・牛・山羊, Dはブー(無声で開始し有声に移行可)
04	1	1	0	0	Bは猫
05	0	0	1	0	Cは子供の時
06	1	1	1	1	Bは犬・猫・動物全般, Cは子供の時, Dはブー
07	1	1	0	1	Bは猫・犬, Dはブー
08	1	1	1	1	Bは鶏, Cは子供の時, Dはブー
09	1	1	1	1	Bは鶏・猫, Cは子供の時, Dはブー
10	1	0	0	1	Dはブー
11	1	0	0	1	Bは言葉で鶏に「トトトト…」, Dはブー
12	0	0	0	1	Bは言葉で雀に「チュチュチュチュ…」, Dはブー
13	0	1	0	0	Bは鶏・ひよこに餌やりや鳥小屋に入れる際に
14	0	1	1	1	Bは鶏, Cは子供の時, Dはブー
15	1	0	0	1	Bは言葉で鶏に「トトトト…」, Dはブー
16	1	0	1	1	Bは言葉で鶏に「トトトト…」, Cは子供の時, Dはブー
17	0	1	1	1	Bは言葉で鶏に「トトトト…」も, Cは子供の時, Dはブー
18	0	0	0	1	Bは言葉で鶏に「トトトト…」, Dはブー
19	1	0	1	1	Bは言葉で鶏に「トトトト…」, Cは大人も, Dはブー
20	0	0	1	1	Bは言葉で鶏に「トトトト…」, Cは子供の時, Dはブー
計	12	10	10	15	Dはブー12名, ブー3名

#### 参考文献

- 高山林太郎 (2010) 「母音の甲乙が確認される現代方言の報告 (1) ～八丈島方言～」 国立国語研究所危機方言プロジェクト研究発表会, 立川, 2010年8月1日.
- 高山林太郎 (2018) 『タッスイのツとは何か』 高知: リーブル出版.